

国際化学肥料ニュース (2021年1月)

肥料業界の2021年1月動態

- * 中国窒素肥料工業協会の速報によれば、2020年中国の尿素生産量が7.81%増の5592万トン、設備稼働率72.94%で、近年最高のレベルである。国内尿素小売販売平均価格1713人民元/トン、前年より8.44%安くなっている。中国税関の速報によれば、2020年1~11月の尿素輸出量487万トン、12月を含む2020年の尿素輸出量が520万トン、前年度より25万トン増える予想である。

また、2021年中国の新規尿素生産能力が392万トン増える見通しであるが、老朽化設備の停止と廃棄もあり、生産能力の純増加量が150~250万トンと予想される。なお、2021年ロシア、インドとナイジェリアに新規尿素プラントの完成があり、世界の尿素生産能力が1000万トン増加する見通しである。

- * りん安の国際相場の高騰を反映して、バングラデシュのDAP国際入札はCFR390~400ドル/トンで中国から全量11.5万トンの購入を決めた。9月の前回DAP国際入札に比べ、50ドル/トン以上も値上げられた。
- * 1月の尿素国際相場が値上げ傾向である。その理由は中国の大気汚染対策と天然ガスの不足で尿素の生産量が約2割減少したこと、サウジアラビアのSafco4生産ラインが1月中旬までの減産を決めたことに加え、ブラジルとアメリカは農産物の価格上昇で肥料使用量が増える見通しで、尿素の需要がひっ迫している。1月第1週ブラジルの尿素CFR価格がすでに300ドル/トンを超え、アメリカもCFR価格が252~284ドル/トンで取引されて、2~3月引き渡しの尿素CFR価格が290ドル/トンで交渉している模様。中東とエジプトの尿素FOB価格が250ドル/トンを超え、2月と3月がさらに値上がり、270ドル/トンと言いつけている。また、インドネシア産大粒尿素はFOB275.5~278ドル/トンで輸出している。

- * 中国税関の速報によれば、2020年11月中国の化学肥料輸出量296万トン、そのうち尿素85万トン、硫安85万トン、DAP48万トン、MAP25万トン、NPK化成肥料11.7万トン。1~11月の化学肥料輸出量が3.1%増の2629万トン、そのうち尿素が12.0%増の487万トン、硫安が20.9%増の766万トン、DAPが14.2%減の524万トン、MAPが4.2%増の238万トン、NPK化成肥料が14.7%増の105.5万トン。

一方、2020年11月中国の化学肥料輸入量96万トン、そのうち塩化加里76万トン、NPK化成肥料15万トン。1~11月の化学肥料輸入量が4.5%減の993万トン、そのうち塩化加里が3.8%減の818万トン、NPK化成肥料が0.8%減の132万トン。

- * アンモニアの国際価格が上昇している。昨年 12 月と今年 1 月上旬の悪天候で北アフリカと中東産アンモニア輸送に悪影響を及ぼし、天然ガスの値上げでさらに生産コストを押し上げた。1 月上旬、アラブ首長国連邦からインドに輸出するアンモニアは **FOB280** ドル/トンになった。また、イタリアの **Fertiglobe** 社も **FOB280** ドル/トンでアメリカの **Trammo** 社にアンモニアを輸出し、ノルウェーの **Yara** 社も 1 月のアンモニア **FOB** 価格を **228~230** ドル/トンで清算することが決めた。ただし、サウジアラビアの **Sabir** 社は 1 月末に 110 万トンのアンモニアプラントを再開することで、2~3 月に価格が落ち着くだろうとの見方がある。

- * 1 月第 3 週のりん安国際価格が大幅に上がった。中国の国内情勢でりん安生産コストが上昇し、生産量が減っているため、1 月にパキスタン **Engro** 社が中国から輸入した **2.5~3** 万トン **DAP** の **CFR** 価格が **425** ドル/トンになった。また、モロッコ **OCP** 社が第 1 四半期に所有のりん安プラントがメンテナンスのために順次停止することで、りん安生産量が 20 万トン/月減少し、毎月 80 万トンにする計画がある。したがって、1 月ブラジルに輸出する粒状 **MAP** が **CFR420~430** ドル/トンを提示し、3 月にはさらに値上げして **CFR435** ドル/トンを提示する。サウジアラビアの **Ma'aden** と **Sabir** 社はすでにアメリカ向けの **DAP** と **MAP** を用意して、**CFR390** ドル/トンを提示している。2~3 月もりん安の価格が高止まりの予測である。

- * インドと大手加里メーカーが 2021 年度の塩化加里輸入基本契約に関する交渉は 1 月末から開始する。2020 年の基本契約は **CFR230** ドル/トンで決めたが、加里メーカー側は 2021 年の **CFR** 価格を 20~30 ドル/トン値上げするように交渉を臨む姿勢である。

- * インドネシアの **Pupuk** 社が行った 30 万トン塩化加里の国際入札は **CFR260** ドル/トンで決定した。落札したのはヨルダン **APC** 社、カナダ **Canpotx** 社とロシア **Uralkali** 社の 3 社である。

- * 1 月第 3 週に尿素価格が高騰し続けている。生産者側は主導権を握り、高値を提示している。アメリカ **Nola** 渡しの **CFR** 価格が 300 ドル/トンを超え、3 月納品の **CFR** 価格が **351** ドル/トンを提示している模様。昨年 12 月末より **25%** も上昇した。一方、エジプトは 3 月輸出の大粒尿素 **FOB335** ドル/トンを提示し、昨年 12 月末より **16%** も高くなっている。

- * 中国税関の速報によれば、2020年12月の化学肥料輸出量288万トン、その内訳は硫安100万トン、尿素58万トン、DAP49万トン、MAP15万トン。2020年1～12月の化学肥料輸出量が5.1%増の2917万トン、金額では8.3%減の67.37億ドル。その内訳は硫安866万トン、尿素545万トン、DAP573万トン、MAP253万トン。

一方、2020年12月の化学肥料輸入量68万トン、その内訳は塩化加里56万トン、NPK化成肥料9万トン。2020年1～12月の塩化加里輸入量が3.7%減の874万トン、NPK化成肥料輸入量が0.6%増の140万トン。

- * 主要国の塩化加里輸入輸出データ

国名	期間	輸入量(万トン)	輸出量(万トン)	増減率
中国	2020年1～11月	818		
アメリカ	2020年1～11月	1060		1%
カナダ	2020年1～11月		1950	9%
ベラルーシ	2020年1～10月		967	8%

- * ロシア肥料生産者協会は2020年ロシア国内化学肥料販売データを公表した。農産物の価格上昇に伴い、農家が化学肥料の使用量が大幅に増えた。2020年ロシア国内化成肥料販売量が12.1%増の354万トン、そのうちPhosAgro社だけが290万トン、80%のシェアを占める。

- * 1月は尿素国際価格の上昇が記録的である。穀物価格の高騰に支えられて、アメリカ、ヨーロッパ、トルコで強い尿素需要が見られ、多くの市場では在庫が少なく、メーカーは強気で販売価格の上昇を維持して莫大な利益を得ることができた。

1月第4週の市況について、エジプトでは、4月渡しの大粒尿素がFOB370ドル/トンで販売され、1か月の間に75ドル/トン以上も値上げられ、2014年10月以来の最高価格である。中東では、今週後半に3月渡しの4万トン尿素がFOB365ドル/トンで販売された。これも2014年第4四半期以来この地域で見られた最高水準である。アメリカでは、新年から需要が大幅に増加し、CFRニューオーリンズが1月初頭の252ドル/トンから365ドル/トンまで45%も上昇した。

尿素が先導し、他の窒素肥料も大きな値上げが見られる。UAN（尿素硝安液肥）はCF社の価格では約90ドル/トン値上げで、2019年以来の高値である。硫安も同じで、CFRブラジルのブリケット硫安が約25%上昇した。アンモニア市場では2月の最新CFRタンパの契約価格が330ドル/トンに設定され、1月より60ドル/トン上昇した。窒素肥料の価格高騰は2月も続く見込みである。

- * 1月29日、ベラルーシのBPC社がインドと2021年塩化加里輸入基本契約を締結したことを発表した。商談はわずか15日で合意し、CFR247ドル/トンで、2020年の基本契約より17ドル/トンの値上げである。この価格に対してカナダのCanpotex社とロシアのUralkali社がそれぞれコメントを発表し、不満を表明した。
- * 中国国家统计局の最新データによれば、2020年中国化学肥料生産量（N、P₂O₅、K₂O換算）が5.85%減の5395.8万トン。
- * Mosaic社の子会社ブラジルMosaicの副社長Eduardo Monteiro氏は2020年ブラジルの化学肥料消費量が前年より6.0%増の4000万トンに達する可能性があり、新記録の樹立が間違いないと述べた。統計データによれば、ブラジルの大豆栽培に約1690万トン、トウモロコシ栽培に460万トン、サトウキビ栽培に440万トン、コーヒー豆栽培に160万トン、綿栽培に140万トン、小麦栽培に80万トンを消費する。
2020年ブラジルが3420万トン化学肥料を輸入して、輸入金額も80億ドルを突破した。輸入化学肥料への依存度が80%を超えた。

大手各社の営業業績

- * ロシアのPhosAgro社は2020年第4四半期と2020年の業績を公表した。2020年第4四半期の肥料生産量が4.1%増の240万トン、販売量が10.1%減の204.5万トン。2020年の年間肥料生産量が5%増の1000万トン、販売量も5.3%増の約1000万トン、そのうち輸出量が4.2%増の710万トン、ともに新記録を樹立した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ウズベキスタンのUzkimyosanoat社は、JSC Navoiyazot肥料工場に新しいアンモニアと尿素プラントが完成し、生産が開始したと発表した。当該新しいアンモニアと尿素プラントは1960年代に建設された旧プラントを置き換えたもので、総投資額9.85億ドル、そのうち日本の銀行と金融機関から5億7700万米ドルを融資した。生産能力が66万トンアンモニアと57.75万トン尿素で、プロジェクト担当は三菱重工業株式会社と三菱商事である。2016年9月着工、2020年12月23日運転を開始した。
- * モロッコのEmmerson社はモロッコ北部にあるKhemisset加里開発プロジェクトの最新情報を公開した。加里鉱石資源5.37億トン、平均品位9.24%K₂O、すでに11月に環境アセスメントの評価を終え、すべての資料を政府に提出した。Emmerson社は2021年上半期に開発許可と環境許可を得て、第3四半期前にプロジェクトのリスク予測、前期採掘設計及び資金の融資を終え、第4四半期から開発を開始する計画を作成した。

- * 中国の烏蘭泰安化工は内モンゴルに建設中のアンモニアと尿素プロジェクトの第1期工事が完成し、正式に稼働した。当該プロジェクトは年間生産能力135万トンアンモニアと240万トン尿素を設計し、第1期の生産能力70万トンアンモニアと120万トン尿素、原料は褐炭を使う。
- * ブラジル地質調査局の発表によれば、ブラジル北部に約32億トンの加里鉱石資源が埋蔵され、Autazes地域の鉱床は地下650～850mにあり、塩化加里平均含有量30.7%、Nova Olinda地域の鉱床は地下980～1200mにあり、塩化加里平均含有量32.59%と確認された。ブラジル政府鉱産とエネルギー省は化学肥料の輸入を減らし、国内農業に十分な肥料を供給するため、すでに当該加里資源の開発を計画しているという。

その他

- * ノルウェーのYara社は所有するリビアの肥料会社LIFECO社の50%株式をリビア国営石油(NOC)とリビア投資庁(LIA)に全部売却すると発表した。
- * アメリカ商務省はモロッコから輸入されるりん酸肥料の暫定アンチダンピング関税を23.46%から16.88%に引き下げると発表した。2019年アメリカのMosaic社はモロッコのOCP社がアメリカに不当な廉価のりん酸肥料を輸出して、不正競争にあたるため、アメリカ政府に提訴し、暫定アンチダンピング関税が設定された。モロッコのOCP社はアメリカ商務省の決定を歓迎して、引き続きアンチダンピング関税の根拠がなく、撤廃すべきとアメリカ商務省と交渉する声明を発表した。
- * オランダのStamicarbon社はEUの鉄鋼および化学産業の革新的な産業変革のコンソーシアム(INITLATE)プロジェクトへの積極的な参加を表明した。その内容は鉄鋼生産から排出される二酸化炭素の富むガスを尿素生産に再利用して、二酸化炭素排出量を大幅に削減することである。そのためにEU委員会から2100万ユーロの研究開発助成金を受け取る。
- * 1月7日、FAO(国連食糧農業機関)が報告を発表し、12月を含み、世界の食品価格が7か月連続上昇した。2020年12月、世界食品価格指数が前月より2.2%上昇し107.5ポイントとなった。2020年の世界食品価格指数の平均値が97.9ポイント、2019年より3.1%上昇し、この3年間の最高値である。なお、世界食品価格指数の最高数値は2011年に記録した131.9ポイントである。

- * スイスの Clariant 社と Casale 社は新しいアンモニア合成触媒 AmoMax - Casale を開発した。触媒活性表面積の増加で、合成効率が 30%向上するほか、二酸化炭素の排出量も減らすことができる。生産能力 1600 トン／日の標準的なアンモニア合成プラントがこの触媒を使用すると、15 年間で生産コストが約 30 万ドル節約するほか、CO2 排出量が最大 85000 トン削減し、アンモニア生産能力が最大 5%向上させる効果があるという。